

大学院生シンポジウム GS02

すべての道は患者に通ず ～QOL を高く維持する医療を目指して～

All Roads Lead to Patients—Advancing Medical Treatment that Maintain High Quality of Life—

岡本 彩香¹, 宮本 寛子²

¹静岡県大院薬, ²北九州市大院工

日本は WHO 加盟国の中で世界一の長寿国であり、これは我が国の食糧・経済の豊かさに加え、優れた医療もたらした結果と言える。一方で、がんをはじめとする様々な疾患治療について、治療の副作用、治療と就労の両立、高コスト等の理由から患者の生活の質（quality of life; QOL）を大きく低下させることが問題となっている。本シンポジウムでは、「患者の QOL を高く維持する治療」に軸を定めて、薬学・工学研究科の大学院生 6 名による研究発表の場を設ける。我々が携わる新規治療薬の開発や薬物動態の改善による既存薬の薬効増強・副作用低減の研究が患者の QOL を改善することへの理解を深め、研究が最終的に患者に行き着くことを再確認する。自己が日々真摯に向き合うその研究がいかに患者の健康を支える薬学に貢献しうるか、高水準の QOL 維持を実現するための医療・薬学・工学研究がどうあるべきか、基本に立ち返るシンポジウムを開催する。本シンポジウムにおいては、多分野の研究者の演題を設けることで、より幅広い知識・思考力の会得に加え、異なる視点に基づく多面的なディスカッションの展開が期待できる。また、患者の QOL 向上というゴールへの様々な研究アプローチと多分野の研究者の持つアイデンティティの共有を通じて、将来の医療を担う若手研究者の絶好の情報交換の場となる。本シンポジウムが若手研究者の成長ならびに医療薬学発展の一助となることを願う。